

歩道が新設され、車道が片側一車線通行となった町道天王線。歩行者も運転者も安心して通行できるようになった



# 歩行者の安全が守られる道に

■町道天王線開通式

今年1月から着工し、3月末に完成した根雨神社横の町道天王線の開通式が、4月12日に開かれました。今までなかった歩道が確保され、車道も片側一車線となった道に、出席した関係者らは「通学する子どもたちの安全が守られる」と喜んでいきます。

町道天王線は、根雨から国道181号や野田方面に多くの車が行き交ううえ、日野病院を受診する人など、多くの歩行者が通る道です。また、小中学校への通学路になっているため、歩道が設置されていないことで安全が心配されていました。

この度、町道天王線横に住居があった福田勲義さん(岡山市在住)が土地を町に寄贈。2.5メートル幅の歩道を新設したほか、歩行者の安全を確保するため、ガードパイプを取り付けました。

式典で景山町長は「野田は、小中学校があり、新しい病院の建設などに伴い、交通への不安が課題となっていたところ、福田さんから土地を寄贈していただき、不安が解消されたことに感謝したい」とあいさつ。

また、黒坂警察署の大下和徳署

1年生が歩道を歩き初め



長は「この広い歩道は子どもたちだけではなく、高齢者の方や車いすの方も安全に通行できます。これからは積雪のある季節でも、歩行者の安全が守られます」と安どの表情。

土地を寄贈した福田さんは、完成した「新」町道天王線を見ながら「見通しが良くなり、根雨から野田にかけて一つになったと感じます。ここを通う子どもたちには、事故が起きないように、交通ルールを守って、安全に通学してほしいですね」と笑顔。

この日は開通式のほか、根雨小学校一年生による歩道の歩き初めが行われ、子どもたちは笑顔で元気よく歩きました。



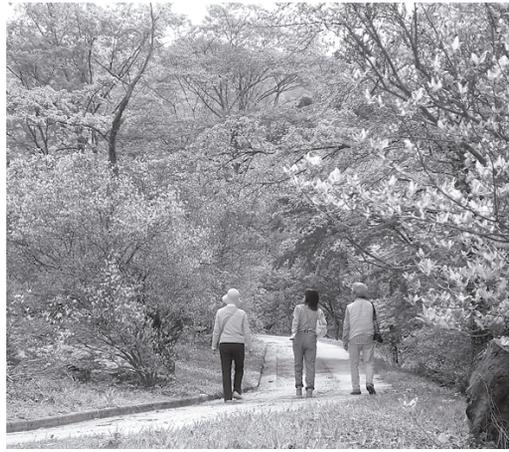
土地を寄贈された福田さん(左から2人目)に感謝し、記念碑が建てられた



根雨小学校1年生は広い歩道に大喜び

あたり一面ピンク色

滝山公園つつじまつり



ピンクに染まった公園内を散策する行楽客

日野町のツツジとサクラの名所、滝山公園（中菅）で、毎年恒例のつつじまつりが4月13日から5月6日まで開かれ、多くの人出でにぎわいました。

公園内には、約3万本のミツバツツジと、約100本の八重桜があり、毎年、その競演を楽しもうと町内外から多くの行楽客が訪れます。今年は春先の気温が高く、例年より早い開花になりました。

期間中は売店や露店が開かれ、地元の特産品などを買い求めるなど、思い思いに、楽しみました。

城の歴史を詳細に

黒坂鏡山城址に看板設置



見事な看板ができあがった

黒坂地区の歴史をひもとき、地域の活性化につなげようと活動している、黒坂鏡山城下を知ろう会（牧智也会長）が、4月10日、鏡山城址に看板を設置しました。

これは、鏡山城址を訪れた人に城や城下町黒坂の歴史などを知ってもらおうと設置。看板には、鏡山城主・関一政の築城から福田家が治めるまでの概要が書かれているほか、福田家が作製した黒坂陣屋絵図、黒坂陣屋の想像図なども紹介しています。

昔を思い起こして

たたら楽校根雨楽舎

リニューアル記念イベント



影山さん（右）の話に聞き入る参加者

かつて、奥日野の主要産業だった「たたら製鉄」で地域を盛り上げようと活動している伯耆国たたら顕彰会（佐々木幸人会長）主催で、4月13日、町公舎を会場に『民謡とむかし語りの夕べ』が開かれ、町内外から50人が参加しました。

町公舎の改修のため休業していた『たたら楽校根雨楽舎』の再オープン記念を祝い企画されたもので、この度の改修で使えるようになった2階を会場に、日南町の三謡会の皆さんが民謡と踊りを披露し、近藤家の古文書解説第一人者で郷土史家の影山猛さん（江府町）が、近藤家の歴史や当時の生活の様子を話しました。

参加者は古民家の趣ある雰囲気の中、伸びのある歌声、軽快な太鼓と三味線で披露される民謡に聞き入り、影山さんによる当時の詳しい歴史の話では、近藤家の屋敷の様子や10万部の古文書解説が現在も行われていることなど、第一人者ならではの貴重な話に、感心しました。

根雨のまちには、民謡に合わせた手拍子の音や楽しむ声が、夜更けまで響きました。

伸びのある歌声の民謡を楽しむ

